



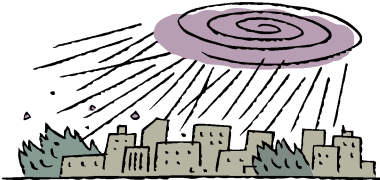
## 隼人(はやひと)の 瀬戸の巖をも 年魚走る 吉野の滝に なほ及(し)かずけり

巻6-960 大伴 旅人

隼人の瀬戸へ来てみると、白波が大岩に砕けて散り、実に勇壮な風景だ。然しながら大和の吉野川の激流の爽やかさの方がもっと素晴らしい。滝の上へ鮎が身を躍らせて走っているのだよ。

### 春の学校・園訪問を終えて！

台風6号の通過とともに、6月4日には近畿地方にも梅雨入り宣言が出されました。うとうとい雨の多い時期ですが、雨もまた私たちの生活には欠かせないものです。特に、農作物には恵みの雨であり、飲料水や生活用水には欠かせない水資源となります。奈良県でも長く続いた紀ノ川水系の取水制限や奈良県広域水道企業団の給水制限も5月末に解除となりました。ただ、梅雨の時期、適度な雨は田畑を潤し、農作物にとっては必要不可欠な水分の補給になりますが、線状降水帯等の発生で豪雨になるリスクも当然発生することから、水害対策等にも留意することが大切です。



学校園では、新学期が始まって2ヶ月が過ぎ、子どもたちが楽しみにしている夏休みまで、あと1ヶ月あまりとなりました。入園、入学した子どもたちも園生活・学校生活にも慣れ、充実した日々を過ごしているように感じます。

そうした中、5月下旬から6月上旬にかけて、教育委員会として、教け育委員さんや県の管理主事、町の部長、課長、指導主事の先生方とともに春季の学校訪問、園訪問をさせていただきました。

この訪問の目的は、校園長さんの学校経営、園経営への想いとどのようなビジョンをもって先生方や子どもたちを指導されているのか、また、先生方の授業や保育の様子を参観する中で、各先生方の授業の様子や気づいたことを懇談会で話し合うこと、そしてもう一つが、指導要録などの子どもたちに関わる様々な書類などがきっちりと整理されているかどうかの確認作業となっています。

訪問させてもらった学校や園でも、子どもたちは元気いっぱいの大きな声と笑顔で「おはようございます。」「こんにちは」とあいさつしてくれてとても清々しいほっこりした気持ちにさせてもらいました。

小中学校においては、午前中は2校時目を、午後は5校時目の授業を参観しましたが、どの学校の子どもたちも先生方の授業を熱心に受けていました。園では、午前中の保育について参観しました。

これまで、私の授業を見る一つの視点は先生方が授業の始めに、黒板等にこの時間の「めあて(目標)」を書いているか、

また、授業の終わりには「まとめ(振り返り)」ができているか、さらには、子どもたちが、先生方の発問を通して、主体的な学びと対話的な学びができているかということ、そして、もう一つがICT教育をどれだけ進めているかで、特に今回はChromebookを授業の中でどれだけ活用されているのかでした。



「めあて(目標)」については、数年前に比べ、全員に近い先生方が書いておられ、ようやく浸透してきた感があります。Chromebookの活用はやはり、学年が上がるにつれて活用されている状況で、中学校ではかなりの割合でロイノートなどのアプリを使っている授業がなされていました。

今年度の園訪問では、公立の北かぐやこども園、真美ヶ丘第二小学校附属認定こども園、真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園、私立の畿央大学附属広陵こども園、ときわ広陵こども園の5園に行かせていただきました。その中で、一番印象に残っているのは、どの園でも入園して2か月あまりしか経っていない3歳児が早くも集団生活に順応し、先生方の言われることをしっかり聴いて、友だちと仲良く遊んだり、歌を歌ったりしている姿でした。特に本町教育委員会が進めている、保育園・幼稚園・こども園の幼児たちが何のギャップもなく、スムーズに小学校につなぐ幼児期の育ちを小学校の学びに生かす架け橋プログラムを全ての園で進めてもらっていることにも感謝して園訪問を終えました。



## 教育委員会関係団体の取組

### 「かぐやちゃん教室」がスタート！

今年度も6月3日(水)から小学校3年生を対象とした「かぐやちゃん教室」が始まりました。この取組は、令和元年度に広陵東小学校をモデル校として始まり、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、「広陵放課後土曜塾」として実施し、令和3年度の2学期から5校全ての小学校で「広陵放課後塾」という名称で実施していました。しかし、「塾」という名称が、民間の学習塾と同様の学校外で児童生徒に教科学習の予習・復習や受験対策を行う私教育機関と混同されやすいことから、令和6年度より「塾」という名称を前面には出さず、「かぐやちゃん教室」という愛称に改めました。

この教室では、宿題を基本として、基礎学力の定着や児童の学習意欲の向上を図るとともに、家庭学習の手助けになる支援を行っています。教室に通う児童の数は少し減少傾向にありますが、今年度は48人の児童に20人の指導員の皆さんに教えていただ



## 架け橋推進委員会での取組！

広陵町教育委員会では、国が示した「架け橋プログラム」、県が示した「幼保小接続ガイドライン」の方針を受け、就学前教育における学びと義務教育における学びの円滑な接続に向けた取組を推進するため、令和5年度から架け橋推進委員会を立ち上げました。架け橋プログラムで謳われている義務教育開始前の5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と呼ばれたことからこの名称の委員会としました。



この委員会は、小学校代表の校長先生、幼稚園・こども園・保育園代表の園長、副園長先生と5歳児及び小学校1年生を担当している先生方に教育委員会事務局担当を加えた構成メンバーとなっています。これまで、年に3~4回の推進委員会を開催し、大学の先生の講義や県の就学前教育アドバイザーの研修会、そして、将来の学びにつながる体験を幼児期にふさわしい形で実現させるアプローチカリキュラムの作成、児童期の学ぶ力の土台となるスタートカリキュラムの作成をしていただきました。特に、幼児期の姿と児童期の姿を共通認識した中で、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿として、①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現を子どもたちの実際の姿について情報交換しながら作成していただきました。

昨年度から各小学校区単位でそれぞれの園と小学校の実情に合わせたアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを実践していただき、年間10回から20数回の交流活動をしていただいています。



今年度で4年目を迎えた推進委員会の取組の一つとして、6月10日(水)には、真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園の5歳児つき組22名が真美ヶ丘第一小学校1年生の2クラス、11名ずつに分かれて給食に参加しました。この日のメニューは麦ごはん、チキンカレー、コールスローサラダ、牛乳で、幼児たちは1年生の児童の間に入って、楽しそうに会話しながら満面の笑顔で食べていました。ある1年生は、カレーが別のお皿に入っていたので、食べにくいだろうとごはんと一緒にあげたり、牛乳パックを折ったたむの手伝ってあげたりと親切にお世話していました。幼児たちは「とてもおいしかった。」「野菜もしっかり食べたよ。」など、うれしそうに話していました。

楽しい給食が終わった後、1年生たちは、幼児たちに絵本を読んであげたり、「カエル」を折り紙で作って遊んでいたりと少しお兄さん、お姉さん気分になっていました。その後、「みんなで外で遊ぼう」ということになって、芝生の運動場で思いっきり追いかけて遊んだり、じゃれ合ったりして楽しいひとときを過ごしていました。



このような交流の取組は、5歳児たちにとって、来年の小学校への見通しが持てるとともに、小学校生活に溶け込む素晴らしいものだと思います。

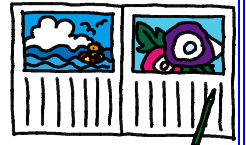
## 手書きは教育の原点！

「あえて「手書き」は、非効率だけど脳にはプラス？」というある新聞記事のタイトルが目にとまり、手書きの効能について、その記事を要約した形で書いてみます。

デジタル化が進み、パソコンやスマートフォンを使って文字入力をするのが日常となっています。子どもたちが学校で紙に字を書く機会が減ったり、漢字を思い出せない大人が増えたりと変化が起きているようです。一方、書道教室や手帳、「書く瞑想(めいそう)」と呼ばれるジャーナリングなど手書きを大切にする文化も人気らしいです。



文化庁が全国の16歳以上を対象に実施した「国語に関する世論調査」(2021年度)によると、約3200人の約9割が、情報機器の普及で、その影響として「手で字を書くことが減る」と回答しています。「漢字を手で正確に書く力が衰える」も約9割を占めていて、多くの人が手書き習慣の減少を認識しているようです。そのような中でも、書道教室に通う子どもたちが一定数いて、正しい姿勢できれいな字を書くことに精を出していることや日々の予定や日常の出来事、感情などを記録する手帳もかなり人気があるようです。また、頭に浮かんだ内容をノートに書いて感情や思考を整理する「ジャーナリング」は、手書きの特徴を重視していて、「書く瞑想」とも呼ばれています。



ある大学の研究では、パソコンのキーボードやスマホでの文字入力は、あまり脳が使われなく、刺激がないため、記憶されにくく知識の定着も起こりにくいということです。また、国語の読解テストをすると、講義内容を記録したり、本を読んだりするの方が成績が高く、メモの習慣などが文章の読解力や思考力に関係することが明らかになったということです。

字を書くことは非効率かもしれないのですが、時間がかかるからこそ、人間の心や思考を文章に反映できるすばらしい文化だと書いていました。また、手書きは教育の原点だとも書いていました。

## 園から

## シャボン玉パフォーマンス

### 北かぐやこども園

6月8日(月)に「シャボン玉

パフォーマンス」を開催しました。

「優しい心は連鎖する」をコンセプトに、身近な存在であるシャボン玉を通して、たくさんの方々に笑顔を届けたいという思いで活動されているシャボン玉師の小西様にお越しいたいただき、シャボン玉パフォーマンスを実施しました。

子どもたちにとって大人気のシャボン玉でのパフォーマンスとあって、大盛り上がりでした。

いつも自分たちで遊んでいるシャボン玉とは違うシャボン玉をたくさん見せていただき大喜びで、いつまでも大空に舞うシャボン玉を追いかけていました。園でのこれからのシャボン玉遊びが、さらに広がっていきそうです。

